

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営	<p>【評価できる点】</p> <p>横浜トリエンナーレのアーティストック・ディレクターに中国のリウ・ディン氏とキャロル・インホワ・ルー氏を当てたことにより、アジアに目を向けた国際展であることや国際都市横浜をアピールできたこと。また、海外の国際展や国際会議に積極的に参加することによって、現在目を向けるべき現代アートや美術館の課題を共有化しネットワークを築き、今後の事業に繋いでいること。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・トリエンナーレの準備についてアーティストックディレクター(ルー氏・リウ氏)との契約、海外国際展の動向把握等、着実に準備を進めたことを評価します。</p> <p>・海外連携では、IEO、IBAなどに参加、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻後の世界情勢の把握に務めたことは、海外巡回や貸出など今後の美術館経営に得るところが大きく、高く評価します。横浜美術館として、トリエンナーレや海外との多様な連携は、国際都市横浜の魅力を発信できるよい機会であり魅力の牽引役として健闘しています。</p> <p>・広報ではウェブサイトを活用し、休館中の美術館からアクティブに美術と市民を繋ぐ活動発信に努め、又リニューアルオープンにむけてウェブサイトの各種準備も着実に実施。</p> <p>・外部連携については、近隣企業との連携の事業視察等から、今後様々な企業等との連携の可能性や多角的な取り組みの拡大が期待できました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>トリエンナーレの会期は延期となったが、前回に続き、海外からADを招聘する等、国際性にも留意しつつ、開催の準備が進捗した。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●大規模改修の工事延長によって、横浜トリエンナーレの会期が3ヵ月延期となったが、円滑に対応が行えたことをまず評価したい。</p> <p>●また世界情勢を把握するために世界のアートフェアや国際会議などにも積極的に参加したことも、今後の活動につながる可能性から高く評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>大規模改修に伴う休館中ながら、横浜トリエンナーレ、海外巡回、広報などで着実な取り組みを展開している。とりわけ、Wall Projectなど仮囲いを活用した事業は、工事期間中ならではの、まさしく「休館中も活動中」という横浜美術館の活動継続が見える化する効果があったと思われる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>美術館におけるコレクションの価値を認識しそれを活用する事業を様々に展開しようと模索していることは評価できるが、それをより魅力的にするための(寄付では賄えない)作品収集・購入の措置がなされていない。トリエンナーレで展示することになるある一定の数の作品について購入予算措置が望まれる。また、今後の事業のバージョン・アップのためには、海外の国際展や国際会議には美術館の館長だけでなく、学芸員および事務方、横浜市の担当者なども参加が望ましい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・横浜出前美術館、やどかりプログラムの告知や近隣企業との事業連携について、市民や企業の具体的な反響を把握し、今後の取り組みにも反映し、しっかりつなげていくことを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>海外美術館との交流や国際会議で得た知見を、美術館の企画・運営に、引き続き活かしてもらいたい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●横浜トリエンナーレは3ヵ年毎に業務委託し、実行委員会をつくり、人員体制を整備するため、準備期間の人員不足が課題となっている。この点を解決する術については、横浜市と政策協働で検討すべきと思う。</p> <p>●コレクション・フレンズのあり方等の見直しについては、協会会などの外部との連携も視野に入れ、検討を迅速に進めてほしい。</p> <p>●今後は、世界のアートフェアへの参加などは職員研修も兼ねて実施してほしい。</p> <p>●今後は、広報の効果を示す根拠データも示してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>国際巡回展の可能性を探る中で得られたであろう、美術館を取り巻く社会経済環境の厳しさや世界情勢の変化などに関する情報、あるいは体感したであろう危機感などは、国際巡回展のみならず、リニューアル後の横浜美術館の事業や運営の大きな方向性にも活かしていただきたい。</p>
2 事業 ①	<p>【評価できる点】</p> <p>2024、2025年の展覧会について、展示室の呼称や導線なども含めて丁寧に検討していること。また、若手作家を積極的にサポートしようとしていること。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・改修後の企画展、展示計画について来館者の見やすさ、わかりやすさに軸を置き、来館者の立場にたった企画検討姿勢を評価します。</p> <p>・仮囲いを活用したNew Artist Picksは、新進作家の紹介や、休館、コロナ禍にあってもアートが人々とともにあることをNAPの事例がもたらし、幅広い年代の人々に質の高い多様な展覧会を提供できることを示しました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>仮事務所であるPLOT48でのオンラインレクチャー、美術館改修中の仮囲い展示等、大規模改修という状況に応じた方法で事業が展開された。リアル・オンラインでの作品制作の実況や対話・応答のプログラムを運営できる美術館職員が配置されており、再開館後の多様な形態での美術館運営の可能性が期待される。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●昨年度に引き続き、仮囲いを活用してNAP(New Artist Picks)を開催できたことは評価したい。休館中であっても、美術館の前広場を訪れた家族連れ等に対して、若手作家を紹介する美術館であることをアピールできていると思う。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>リニューアルオープン後の企画展について、改修後の展示スペースを踏まえた検討を重ねているようで、実際の企画展の開催が楽しみである。Wall Projectの成果は、上記のとおり。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>海外との連携や貸出など、展覧会の準備に5年くらいはかかることが多いので、よりフレキシブルな展覧会企画準備が求められる。また、新進作家を積極的に取り上げようとする姿勢は評価できるが、個展などを企画するレベルのベテランと、新進作家の間の中堅レベルの作家が見過ごされやすい。そうしたことを念頭にグループ展や国際展の企画をしてほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・今後もNAP事例のように、質が高く、発想豊かで多様な展覧会の提供、また多様な場や空間を活用しての取り組み等も実現し、子供から大人まで来館者の裾野をいっそう広げることを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>オンラインレクチャーや仮囲い展示の実績をとりまとめ、今後の企画・運営に活用することを期待する。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●令和6年度からの企画展のラインナップは多様なテーマ設定と聞く。再開館後の活動に期待している。</p> <p>●今後のNAPがどのように変化していくのかも楽しみである。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>企画内容、集客(採算性)の両面から、大規模改修後の横浜美術館の新しい姿や存在価値を示し、今後の事業や運営を期待させるような企画展の実現に向けて、さらなる検討、準備を進めていただきたい。リニューアル・オープンは、話題づくり、集客の両面で大きなチャンスであり、パブリシティ活動を積極的に展開して、トリエンナーレ、企画展、コレクション展の成功に繋げていただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
2 事業 ②	<p>【評価できる点】</p> <p>作品を適切に管理・保存し、コレクション展の他美術館への貸出など積極的に活用してくること。ウェブサイトのコレクション・データベースを充実し公開していること。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・郡山市立美術館での「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」は、横浜美術館の充実のコレクションを各地の方々にも鑑賞していただく機会を提供し、横浜美術館の存在感を示すなど、その意義は大きく、今後のコレクション活用モデルとしても高く評価したいと思います。</p> <p>・コレクション画像1万1千点について、公開等の環境整備もなされ、コレクション展や各種講座などを通してその魅力の発信に積極的に努めています。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>文化観光拠点計画に沿った美術資料データベース作成・公開が行われた。改修期間中、所蔵作品の外部倉庫での保管が適切に行われ、収集作品の選定会議も開催された。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●昨年度に引き続き、コレクションを活用した巡回展の実施、デジタルアーカイブの拡充(作品画像の公開)、観賞アプリの開発、映像資料や紀要のデジタル化などの活動を評価したい。オンライン配信のメニューの拡充については高く評価したい。コレクションを未来に継承し、多くの人が活用できる基盤を整備することは重要。</p> <p>●政策目標(事業②)「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」については、昨年度に引き続き、活用と継承は着実に実施できている。さらに今年度は、収集についても進展が見られたことは意義深い。今後の活動に期待したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションのデジタル画像の撮影・公開、新たな解説文の作成、英訳などは、コレクションを支え、価値を伝える基盤となるもので、休館中に文化庁の文化観光拠点計画の補助金を活用して実現できたことは美術館にとって大きな資産になると思われる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>作品収集については相変わらず寄付に頼り、新規購入予算が十分に措置されていない。来年美術館がリニューアル開館するにあたって、展覧会と作品収集が連動する美術館にとって最も基本的な流れが再開されることを期待する。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・郡山での展覧会、教育講座やトーク講座の活用にもみるように、リニューアルオープン後もぜひコレクションの多様な、そして魅力を伝える活用を期待しています。そのためには、デジタル化の更なる強化も求められます。今後、一層の収集、保存、活用の充実を図り、未来にしっかり継承していくことを望みます。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>仮保管中の所蔵作品の再開後の美術館への移送、再配置作業が着実に終わることを期待する。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●コレクションや資料のデジタル化はさらに拡充してほしい。</p> <p>●「魅力的なコレクション形成」のための活動が寄贈・寄託に偏っている。収集費を確保するための文化基金の拡充や協会のあり方検討の他、市の一般財源からの収集費を確保することもぜひ検討してほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コレクションの基礎的な情報整備に加え、オンライン配信や外部の専門機関と共同で取り組む鑑賞アプリや鑑賞番組なども強化して、コレクションの価値のさらなる普及に努めていただきたい。生成AIをはじめとしたデジタル技術の急速な進展に、美術館としてどのように対応するののかも大きな課題。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
2 事業 ③	<p>【評価できる点】 各種の教育普及事業を積極的に展開し成果を上げた。</p>	<p>【評価できる点】 ・美術館の使命のひとつ、美術と市民をつなぐ教育プログラム・鑑賞教育について、若者支援、教員向け、一般市民向け、ボランティアとの協働と、各対象にむけてきめ細かく多様な切り口から美術の魅力を伝えており高く評価できます。 ・「横浜[出前]美術館」「やどかりプログラム」にみる働きかけ、オンライン「じっくりみる この一点」、日本画の画材を用いて描く講座の開催など、どのプログラムも、体験を通して美術の魅力に触れ、学びのある組み立てになっており素晴らしいと思います。 ・市民協働は、コロナ禍で実施見送りのプログラムもある中で、オンラインも含め「横浜美術館コレクションと歩く ヨコハマ・アートウォーク」においてボランティア自身が語り手となって発表するなど、市民と美術館の地道な協働の実現であり大いに評価できます。また各種社会貢献事業は、多角的な取り組みで美術館と社会を繋ぎ、その意義するところは大変大きいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 講座「横浜美術館コレクションを深掘りする」は、所蔵コレクションを活かした企画であった。</p>	<p>【評価できる点】 ●多様な教育プログラムやアウトリーチ活動への取り組みの他、美術館の教育普及に活用できる配信コンテンツも拡充、さらに改修後の事業検討も進んでおり、高く評価したい。 ●大人・子どもと区別せずにアトリエ事業を試行的に実施した点を評価。</p>	<p>【評価できる点】 休館中でありながらも、仮拠点やオンラインも活用しながら、横浜美術館の強みである教育プログラムを継続的に実施している。若者の自立を支援する福祉施設へのアウトリーチ、車椅子ユーザーアーティストとのグループワークなどの積み重ねは、美術館の社会的な価値を高める取り組みと言える。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】 特になし</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ・美術と市民を繋ぐ事業の意義は大きく、人材確保や育成、他との連携など組織体制をしっかり整え、今後も継続伸展していただきたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 再開館後に向け、地域に開かれた美術館という観点から、オープンゾーンである「はとぼエリア」のあり方の検討の深化を期待する。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ●達成指標が回数のみが多いが、今後は参加人数や参加者の満足度などの成果についても加えてほしい。 ●ボランティア活動に関しては、休館中は、文化観光拠点計画の活動にシフトしているようだが、これまでの多様な対象に対して実施してきた観賞体験の質を高めるための活動は大変重要。横浜美術館のボランティア活動は、生涯教育の場として、自身の学びや人生を豊かにするためにも実施されていたと思う。その点は今後も重視してほしい。 ●改修後は、大人・子どもと区別せずにアトリエ事業などにも注力し、クリエイティブ・インクルージョンを今後の方針として打ち出してほしい。市民協働のあり方も同様に、分け隔てなく、多様な市民とともに美術館を築きあげてほしい。 ●昨今、問題視されている子どもの体験格差が是正できるような取り組みにもチャレンジしてほしい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 休館中の教育プログラムや社会貢献事業は、通常の開館時とは異なる成果や経験につながった側面があるのではないかと。それらをリニューアルオープン後のプログラムにつなげていただきたい。</p>
3 施設の 運営 事業 ①	<p>【評価できる点】 多様性をキーワードに適宜準備している。</p>	<p>【評価できる点】 ・美術館リニューアルオープン後の全体構成や調度什器設計等にかかる全体デザインプロジェクトを立ち上げ、横断的に協議、環境整備としてのデザイン、設計が整いました。 ・改修後の基本方針、開かれた美術館運営について、多様性に資する概念をユニバーサルとインクルージョンに大別し、子供、子育て層にターゲットの絞り込みを行うなど、その方向性が明確となったことを評価します。館内すべてを対象に来館者アンケートを行い、ユーザー視点に立った改善を図る方針の策定により、様々な人に開かれる館運営がなされると期待したいと思います。</p>	<p>【評価できる点】 ショップやカフェを含む来館者サービスの向上案が作成された。</p>	<p>【評価できる点】 ●サービス向上を図るため、改修後、来館者アンケートを実施し、改善する計画となっている点を評価したい。</p>	<p>【評価できる点】 デザイン・プロジェクト等で、ハード・ソフトを含めた来館者サービスの検討を行うとともに、多様性の概念を「ユニバーサル」と「インクルージョン」に大別して子ども・子育て層をターゲットにしたことは、リニューアルオープン後の運営でどんな成果につながるか、期待できる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】 特になし</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ・施設運営政策の目標も実践状況もおおいに期待できるものですが、リニューアルオープン後に備え、多岐にわたる運営内容を推進するためにも、人的体制を整え、活力ある館運営にあたることを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 ミュージアムカフェは、公募型プロポーザルによる選定という当初案では決定できなかった。調整が進められているようではあるが、いくつかのシナリオを用意しておいた方がよいのではないかと。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【更なる取組を期待する点】 工事中に設計図に基づいて緻密な検討を行っていたとしても、実際に開館してみると、予測しなかった不具合や来館者から予期せぬ指摘があることも予想されるため、柔軟かつ臨機応変な対応ができるよう、準備を進めていただきたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設の 運営 事業 ②	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 ・改修後にむけた「はとばエリア」の空間構成や調度什器設計等の検討を重ね、様々な利用者のニーズを踏まえ、什器100種類やサイン300点のデザイン設計を行うなど着実に準備を進めています。 ・「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」より、横浜美術館開館30周年データ集のウェブ公開にむけて編集作業など地道に準備が進捗していることを評価します。	【評価できる点】 VR、ARや作品制作のオンライン解説に対応できる専門性を備えた職員が増加している。近隣企業等との連携強化が図られた。	【評価できる点】 ●仮囲いを使つての市民参加型の「みなといろ」の試みはよかったと思う。 ●ロビー・受付・サインなど実物大を使い、障がいのある方に実際に使ってもらおうというインクルーシブ・ワークショップ(フォーマティブ・エバリュエーション)を行ったことは意義深い。今後も、こうした取り組みを続けてほしい。	【評価できる点】 リニューアルオープンに向け、デザイン計画や什器の選定などを着実に進めている。
	【更なる取組を期待する点】 特になし	【更なる取組を期待する点】 ・業務効率化のためのDX化については、内部研修や人材育成だけでなく、外部専門性との連携も視野に、DX化に対応できる人的体制を早急に整える必要があります。	【更なる取組を期待する点】 作品の制作プロセスや鑑賞の過程にAIが関わってくるのが予想される。そうした状況への対応の検討も必要になると思う。	【更なる取組を期待する点】 ●仮囲いを使つた事業は、利用者数の把握などは難しいが、成果をどう示すことができるのか(実績指標)も計画時に検討してほしい。 ●今後起こりうるであろう高騰する光熱費のリスクマネジメントについては、今年度のように市と指定管理者間で協議しながら進めてほしい。	【更なる取組を期待する点】 美術館・博物館の光熱水費の高騰やそれに対応するためのクラウドファンディングなどが話題となっているが、横浜市には指定管理者と合意したリスク分担に基づき、光熱水費等の高騰に対応するなど、改修後の美術館の円滑な運営を支えていただきたい。
4 その 他の 業務 5 組織 6 留意 事項	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 ・大規模改修や休館など平素と異なる時期においても美術館活動がスムーズに展開されており、美術館と横浜市が政策協働の歩調を合わせ事業遂行の相互連携が滞りなく進められています。仮事務所において休館中も様々なチャレンジをもって美術と市民をつなぎ、リニューアル後のオープニングに備え、施設運営の方針や各体制の構築、具体的準備も着実に進めています。	【評価できる点】 政策経営協議会の開催、外部評価委員による視察が滞りなく実施された。	【評価できる点】 ●45名体制が令和4年度末では44名体制であるが、その後、人員を補強し、広報部門を強化するなど、迅速に対応できる組織であることを評価。	【評価できる点】 休館中も、市との連携、協議を前提に事業、運営に取り組んでいる。
	【更なる取組を期待する点】 担当リーダー・職員の達成目標が29人に対し、達成状況は28人となっている。専門職員・事務職員の人数と分野の配置が適正か速やかに検討してほしい。また、トリエンナーレの専門スタッフが安心して経験を積み高いパフォーマンスができるように、横浜市や財団、実行委員会も含めて知恵を出し合ってもらいたい。	【更なる取組を期待する点】 ・リニューアルオープン後の組織運営について、館全体で情報共有し、ユーザー目線にたった運営を実施していくには、バランス良い人的体制を整えることが求められます。 ・組織については、引き続き効率的な運営を実施するためマネジメントや人材育成が必要であるとともに、外部連携もふくめ組織力の強化を図ることを期待します。	【更なる取組を期待する点】 他県の大規模美術館の学芸員不足、課長職補充難の報道があった。もって他山の石とし、横浜美術館職員処遇の充実に努めてもらいたい。	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】 休館中に行なった市との協議の中で、リニューアル・オープン後の課題や方向性が見出せたとすれば、それらを活かして政策協働ならでの指定管理者制度につなげていただきたい。

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
7 収 支 計 画	【評価できる点】 特になし	【評価できる点】 ・収入について、文化庁補助金を獲得し、施設管理費を削減するなど種々努力をされ、結果、想定の実業実施が予定通りなされたことは、高く評価したいと思います。	【評価できる点】 文化庁からの補助金がリニューアル作業の中で活用され、美術館全体としての収支の黒字化に貢献した。抑制気味となった移転費予算の不足分を、運営の合理化で補った。	【評価できる点】 ●昨年度に引き続き、補助金の獲得、経費の削減など、財源確保に尽力している点を評価。特に、文化庁の文化観光拠点計画における5カ年にも及ぶ補助金の獲得については大いに評価したい。事業費の3分の2は国が補助するが、残りの3分の1は財団が出捐するという決断を下したことに敬意を示したい。	【評価できる点】 文化庁の文化観光拠点計画の補助金を獲得することで、休館中にコレクションに関する情報整備などを実現できた点は、大きな成果。
	【更なる取組を期待する点】 民間の実業とは異なる公立ならではの事業に対し、十分な予算措置を望む。	【更なる取組を期待する点】 ・リニューアル後の経営基盤の強化を図るためには、法人協賛制度はもとより、市民によるファンドの仕組みの構築なども含め、多様な財源の確保につとめ、経営基盤を盤石に整えることを期待いたします。美術館は市民のものであり、市民は鑑賞者にとどまるだけでなく、美術館の支え手としても参画できるとよいと思います。「横浜美術館コレクションフレンズ」もその一例で、更に枠を広げる仕組みの可能性を期待いたします。	【更なる取組を期待する点】 補助金政策に影響を持つ文化庁は京都に移転したが、引き続き国の芸術文化支援に関する情報の収集に努めてもらいたい。	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】
総 括	大規模改修後の美術館リニューアル開館を見据えた事業の立案・準備を着実にこなしている。特に国際都市横浜に相応しい横浜トリエンナーレのディレクターの選出や国際ビエンナーレの調査、海外美術館との連携の強化など、リーディング美術館としての展覧会や事業が期待される。一方で、それに相応しい予算措置・組織体制が組まれているかは心細い。一般会計が2兆円、特別会計も1兆円を超える政令指定都市・横浜市が本気で文化事業を重要課題として取り組んでいるか問われている。市民のために美術館事業を充実させることは当然であるとして、横浜美術館は日本を代表する美術館としての評価を得ているので、そうした自覚のもとに事業およびそのための予算措置をしてほしい。	・仮事務所において、休館中の事業からリニューアルオープン後に向けた方針策定まで多様な業務を着実にこなし、横浜トリエンナーレについては国際都市横浜を牽引する認識を持ちつつ、柔軟かつ着実に準備を進めることができている。 ・ウェブサイトを駆使し、「休館中も活動中」としてアクティブに美術と市民を繋ぐプログラムの提供に務め、この機会であれば体験できない市民とアートとの関わり方を実現したことを高く評価します。 ・郡山市立美術館における横浜美術館コレクション展の開催は、コレクション活用の優れたモデルに資する取り組みであり、また昨年に続き仮囲いを用いたNAP若手アーティストの展覧会は、新しい発想、柔軟な取り組みとして今後も伸展が期待できます。 ・ボランティアとの協働についても活動内容が一段と充実し、ボランティアと美術館の確たる関係性における、新たなプラットフォーム構築への準備がなされ期待したいと思います。 ・令和4年度に印象的であったのは、館全体での情報共有及び横断的に意見交換のできる業務体制の在り方と、もう一点、来館者視線の立場にたち、ネーミング例などにみるように市民にわかりやすく、魅力ある発信がなされている点で、結果、質の高い事業提供の成果につながっています。報告や業務視察からも、内外に開かれ、質が高く豊かな発想の広がる魅力的なミュージアムとしてますます今後期待しています。休館中に蒔いた様々な種をリニューアル後もぜひ育てていただきたい。	所蔵作品の一時保管場所の実地見学、NAPのPLOT48での新進アーティストのリアル・オンライン講演視聴という2回の事業視察および美術館ホームページで逐次公開される情報を通し、大規模改修後のリニューアルオープンの準備作業が順調に進捗していることがうかがえた。外部要因により、リニューアルオープンの時期は延期されたが、令和5年1月には「中長期的な見通しを持った単年度計画案」が主要な課題について策定されており、延期の影響についての不安は解消された。	●美術館の経営資源であるカネ、ヒトのマネジメントに長けている組織であると思う。ただし、横浜トリエンナーレの人員体制については、市と検討して改善策を見出してほしい。 ●PDCAのマネジメントサイクルで、市民も参画した上で施設のデザインを推進している点を高く評価したい。こうした取り組みを市民だけでなく広く世界に発信し、大規模改修後の期待を広めていくことにも尽力してほしい。 ●国際都市横浜の魅力を高めるためにも、美術館のコレクションを拡充してほしい。その際、設置者である横浜市が収集費を予算化できるよう、文化振興課の頑張りに期待したい。	大規模改修に伴う休館中には、①休館中も美術館の活動を継続させること、②休館中でなければできない基盤整備を行うこと、③リニューアル・オープンに向け、横浜美術館のさらなる価値の向上に向けた準備を行うこと、などが重要だと思われるが、それぞれについて、しっかりとした取り組みが行われており、来年3月の再開館を楽しみにしたい。

令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和4年度計画		実績		実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績【達成】	B	説明	
1 経営 政策目標(経営) 横浜美術館は国際都市横浜の魅力を引き伸ばす。	1	(1) 横浜トリエンナーレ [重点的な取り組み]	●ヨコハマトリエンナーレ 2023に向けた準備	タイトルおよびコンセプト発表	実施【達成】	B	・6/30会期・会場・ADリリース ・9月AD(キャロル・インホワ・ルー) 来日 ・11月AD(リウ・ディン) 来日 ・12/20会期変更リリース ・3月 AD2名揃って来日
	2	(2) 海外との連携 [重点的な取り組み]	●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外巡回	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
	3	(3) 広報	●ウェブ等で活動を発信	・仮拠点移転後から開始している休館中事業の発信継続 ・翌年度より開始する再開館にむけた発信準備	実施【達成】	B	・昨年度に続き休館中発信継続(①note:18区アウトリーチレポート、職員インタビュー、今月の1点②Twitter/Facebook:横浜美術館クイズ、休館中日記) ・昨年度に続き神奈川新聞連載継続(～R4.12 終了)
	4		●改修後の広報基本方針の策定	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
	5		●改修後のウェブサイト充実・公開	令和6年度以降の本格的な公開に向け準備	実施【達成】	B	・10月ウェブサイト構築会社決定・コンテンツ戦略企画立案
	6	(4) 外部との連携	●中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	調査に基づいた報告書提出 1回/年	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>第8回横浜トリエンナーレの準備に本格的に取組みはじめる1年となりました。</p> <p>・令和4年度に選出されたアーティスティック・ディレクター(AD)のリウ・ディン氏、キャロル・インホワ・ルー氏と横浜トリエンナーレ組織委員会との間で4月に契約を締結し、開催準備をはじめました。しかし年度途中での会期の変更に伴い、スケジュールを見直したうえで進めることになりました。</p> <p>【6月】AD決定のプレスリリースを配信。あわせて会期・会場について情報を公開しました。</p> <p>【12月】当初発表していた会期(2023年12月9日(土)～2024年3月10日(日))を変更し、新しい会期(2024年3月15日(金)～6月9日(日))について情報を公開しました。</p> <p>・会場視察、出品作家調査、打合せ等を目的とするAD両氏の来日については、中国の「ゼロコロナ政策」による制約を踏まえ、ルー氏とリウ氏を個別に招へいし、次のとおり進めました。</p> <p>【9月】ルー氏が来日。滞在中は、展覧会のための調査のみならず、これまでの活動紹介と第8回展に対する期待などについて全職員向けに話す機会を設けました。</p> <p>【11月】リウ氏が来日。展覧会について担当学芸員と内容を詰める作業をおこないました。</p> <p>【3月】ルー氏とリウ氏揃って来日。会期変更に伴うマイルストーン変更の確認および変更契約の締結をおこないました。また、会場の視察および候補作家との面談などを実施しました。</p> <p>・海外の国際展の動向を把握するため、ドクメンタ(6月)、ベルリン・ビエンナーレ(6月)、イスタンブール・ビエンナーレ(9月)、リヨン・ビエンナーレ(9月)、ヴェネチア・ビエンナーレ(9月)、シャルジャ・ビエンナーレ(2月)、コチ・ビエンナーレ(2月)、シンガポール・ビエンナーレ(2月)などの調査を実施し、現地でのヒアリングなどを通してコロナ禍やウクライナ侵攻後の各国の状況を確認することができました。</p> <p>【課題】</p> <p>・美術館を拠点に4回開催してきましたが、今後、一層発信力を高めつつ、持続的に開催していくためには、組織体制の強化、人材の確保、会場の安定的確保等の課題を 横浜市と財団が協力して解決していく必要があります。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>・横浜トリエンナーレでは、会期変更に応じてスケジュールを見直し、アーティスティック・ディレクターとの調整や海外の国際展の動向把握を行うなど、柔軟で多角的な活動を続けたことを評価します。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻による影響などの世界情勢を見極めつつ、巡回展に関わる世界の動向を調査し、次年度以降の計画立案に結びつけられました。</p> <p>・広報では、ウェブサイトのリニューアルに向けて委託事業者を選定するなどリニューアルオープンに向けた準備を進めるとともに、休館中のウェブサイトのコンテンツ充実、仮囲いでの一般参加型プロジェクトの実施など、多方面にわたる展開を進めたことを評価します。</p> <p>・近隣企業との連携では、ウェブアプリケーションの開発やビルのロビーでの映像コンテンツの投影、体験型ワークショップの実施など、活発な取組を継続できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>・検討中のウェブサイトのリニューアルでは、SNS等で展開している既存のコンテンツと連携しつつ、横浜美術館を広くアピールするものになることを期待します。</p> <p>・外部との連携について、令和6年度をもって終了する「横浜美術館における文化観光拠点計画」の成果も組み入れつつ、収益性やにぎわいの創出、市の政策への寄与などの観点から更なる取組が進むことを望みます。</p>
<p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>ポスト・コロナ/ウィズ・コロナおよびロシアによるウクライナ侵攻という世界情勢のなかで海外との連携を継続していく方法を探るため、美術館実務者が集まる国際会議に出席し、各地の状況と新しい動向を確認しました。</p> <p>・展覧会巡回担当実務者会議(IEO=International Exhibition Organizers, 5月/オンライン)に出席し、各館の輸送費の高騰や地球温暖化対策への取組など、各館の最新の動向を知ると同時に作品の貸出や展覧会の海外巡回の際の注意点や検討課題を把握するほか、アジア地域のアート担当者や具体的な事例を参照しながら意見交換しました。</p> <p>・現代美術のコレクションを持つ美術館のネットワーク会議(CIMAM=International Committee for Museums and Collections of Modern Art)の年次会議(11月/スペイン/ハイブリッド)に参加し、美術館組織の統治をはじめ、今後制度上見直していくべき課題について学ぶことができました。</p> <p>・国際展ネットワーク会議(IBA=International Biennial Association, 10月/コンゴ)に出席し、紛争の時代に国の単位を超えた国際展ネットワークを介して連携・連帯する方法について議論しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・ポスト・コロナ/ウィズ・コロナおよびロシアによるウクライナ侵攻と、刻一刻と変わる世界情勢のなかで計画的に海外との連携が難しくなっている今、以下の取組を継続していくことが課題と考えます。</p> <p>①国際巡回:IEO(International Exhibitions Organizers会議)の会議に継続的に参加し、情報収集/意見交換の機会を確保する。</p> <p>②海外インターン:受入れが困難な現況に鑑みて、海外ネットワーク構築の強化に重点を置く。</p> <p>※ICOM、CIMAMの会員となり、全職員が世界の美術館の動向を継続的に調査・把握できる体制を整えました。</p>	
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <p>休館中ならではの活動である「横浜[出前]美術館」「やどかりプログラム」を当館のウェブサイトにて告知するとともに、各種SNSを駆使して館の魅力を発信しました。</p> <p>・リニューアル後の理念をつたえる「ミュージアム・メッセージ」(日英)の制作、リニューアルロゴを開発しました。</p> <p>・改修工事期間ならではの事業「New Artist Picks: Wall Project」の魅力をわかりやすく発信しました。</p> <p>・改修工事での仮囲いを活用し、「みんなと、いろいろ、みなといろ」と題し、一般参加型のプロジェクトを実施しました。</p> <p>・横浜市内18区の文化施設等で行う活動を「横浜[出前]美術館」、仮拠点PLOT48で行う活動を「やどかりプログラム」と名付け、特設サイトを開設するなど、お客様から見えにくくなる休館中の事業をわかりやすく発信しました。</p> <p>・昨年度に引き続き、Twitter、note等のSNSを活用して、「職員インタビュー」「休館中日記」などのコンテンツを製作し、休館中の様子を紹介しました。また、「今月の1点」「横浜美術館クイズ」などを通して、当館の魅力とコレクション作品の魅力をわかりやすく発信しました。</p> <p>・神奈川新聞で、当館コレクションをテーマにした連載「アート彩時記」を継続し(令和5年1月まで/計13回)、それぞれの筆者(学芸員)の専門性や個性を活かしながら作品を紹介しました。</p> <p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>・昨年度策定した「改修後のウェブサイトの方針」に基づいたウェブサイトのリニューアルを行うため、公募型プロポーザル方式による委託事業者の選定をおこないました[文化庁文化観光拠点計画]。</p> <p>・館内全スタッフと協議を重ね、基本デザイン(日英)、ディレクトマップ(日英)を完成させました。</p> <p>・ネイティブライターを含むコンテンツ制作チームを編成し、外国人観光客を魅了するコンテンツ(日英)を制作しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・新たなメディアを活用しながら、効果的に休館中の活動を発信することや、リニューアルを見据えたウェブサイトのリニューアルを行う必要があります。また、館の発信力を高めるために人的体制を整えることも重要な課題であると考えます。</p>	
<p>【成果:休館中の事業等】</p> <p>近隣の企業と連携し、コレクションの普及に資する事業に取り組みむとともに、当館が独自に企画したワークショップなどを近隣団体の要望に応えて実施しました。</p> <p>・近隣企業との連携および「Heart to Art」事業の一環として、野村総合研究所の若手社員と当館内グループ横断の職員によるコレクション鑑賞アプリの共同開発を昨年度に引き続き実施しました。(令和5年4月にウェブサイト上で公開の予定です)。</p> <p>・キャンノン・マーケティングジャパンと博報堂が企画実施する、高精細映像を駆使した新しいアート鑑賞番組(オンラインでのライブ配信)に協力館として参加しました(3月)。</p> <p>・近隣企業との連携の一環として、MMパークビル管理会社からの要請に基づき、エントランスロビーにおいて当館の映像コレクションから1作品、およびコレクション映像コンテンツ「じっくりみる この一点」から2番組を投影するプロジェクトに取り組みました(令和4年8月から令和5年3月まで常時上映。有償、継続決定)。</p> <p>・近隣団体からの要望に応え、渉外と教育普及グループが共同で企画したビジネスパーソン向け体験型ワークショップ「アイマスクで粘土造形―遮断される感覚、拓かれる感覚」を一部有償で外部展開しました。</p> <p>【成果:改修後に向けた検討】</p> <p>・昨年度策定した「外部連携の改修後の基本方針」に基づき、従来おこなってきたコレクション・フレンズのあり方等の見直しに着手しました。</p> <p>・芸術・美術のビジネスにおける効果に対する近隣企業等の関心を受け、改修後にどのような展開を図るべきか検討しました。</p> <p>【課題】</p> <p>・リニューアル後の外部連携の方針について、美術振興に加え、収益性、にぎわいの創出、市の政策への寄与などの観点から検討することが課題と考えます。</p>	

令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p><b>使命</b></p> <p>(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人々が訪れる魅力的な美術館になります。</p> <p>(2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。</p> <p>(3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。</p> <p>(4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。</p>
--

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和4年度計画		実績		実施状況		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明			
2 事業 政策目標(事業①)質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を広げます	1	(1) 企画展	●改修後の企画展準備	企画展案検討会議 1回/年	2回/年【達成】	A	・6月 展覧会会議(2回):R6-7の企画展候補案絞り込み完了	
	2		●改修後の展示計画の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出	
	3	(2) New Artist Picks	●新進アーティストを紹介するプログラム開催	1回/年	1回/年【達成】	B	・11/14 New Artist Picks: Wall Project「浦川大志 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲い」@横浜美術館仮囲い(～5/31)	
	4		●展覧会後5年間の作家の活動を把握	1回/年	1回/年【達成】	B	・8月 実施	
政策目標(事業②)魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	5	(1) コレクション	●コレクションの形成に関する通常業務	内部検討委員会開催 1回/年	1回/年【達成】	B	・10/25 内部検討委員会@市庁舎	
			●コレクションの保存	—	—	—	—	
			●保存等に関する通常業務	保管状況の確認1回/月	1回/月【達成】	B	—	
			●改修後の新収蔵庫への収蔵計画立案と準備	一次案策定	検討【取組時期変更】		・R5策定に向け立案中	
			●コレクションの活用	—	—	—	—	
		8	・コレクション国内展:1回/2年(令和3-4年度)	1回/2年	1回/年【達成】	B	・4/23-6/5「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」@郡山市立美術館	
		9	・コレクション画像撮影・公開	撮影・デジタル化・公開	実施【達成】	B	・10月 公開開始	
		10	・改修後のコレクションデータベースおよび作品解説	250点公開	実施【達成】	B	・3月 作品解説250点公開	
							【追加実績】2件 A ・8月 MMパークビルでの映像コレクション常設展示【HTA:MMパークビル】 ・3月 アート鑑賞番組(オンラインでのライブ配信)でのコレクション紹介	
		11	・改修後のコレクション展方針の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出	
		12	(2) 美術情報センター	●業務で利用する図書資料の出納(開架図書及び閲覧エリアは休室)	原則、業務利用出納1回/週	1回/週【達成】	B	
		13		●所蔵映像資料デジタル化・公開	公開する映像番組の基本方針策定	実施【達成】	B	・3月
		14		●蔵書のデータ更新・公開	原則、1回/日	1回/日【達成】	B	
		15		●改修後の活動方針と組織体制の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

評価		自己評価	行政評価
【成果:改修後に向けた検討】 昨年度に検討を重ねたリニューアル後の展覧会編成方針、展示スペースのゾーニングと動線計画にもとづき、令和6から7年度の展覧会の編成について具体的な検討を進めました。 ・企画展については、6月に2回にわたり開催した展覧会検討会議により令和6・7年度の企画案を絞り込み、実現に向けてそれぞれ具体的な調整をおこないました。 ・リニューアル後の展示室の名称について、来館者の立場から見たわかりやすさ、改修による展示スペースの新設、今後の展示室の活用方針等に照らして検討を行いました。その結果、鑑賞動線に沿って、「ギャラリー1」～「ギャラリー9」というシンプルな名称に変更することとしました。	【評価できる点】 ・令和6～7年度の展覧会を具体的に検討し、調整を行うなどリニューアルオープン後を見据えて着実に準備を進めました。 ・大規模改修中の横浜美術館の仮囲いを使った「New Artist Picks: Wall Project」(NAP)は、令和3年度に続いて新たな企画を実施し、休館中でも年間を通して絶えず美術作品に触れる場を設けたことを評価します。	【課題】 ・企画展については、コロナ禍を経た現状を踏まえ、展覧会の質的水準の高さと集客(収支バランス)の両立を目指したスキームづくりが引き続きの課題と考えます。	【更なる取組を期待する点】 ・横浜美術館の特徴あるコレクションなどを年間を通して鑑賞できるよう、引き続き具体的な検討を進め、実行に移すことを期待します。 ・難しい課題となりますが、リニューアルオープン後の企画展について、質的水準の高さと集客が両立するスキームづくりの実現を望みます。
【成果:休館中の事業等】 昨年度に引き続き、美術館仮囲いを使った「New Artist Picks: Wall Project」を実施し、当館が掲げる「新進作家の紹介」の機会を確保しました。 ・[第1弾]New Artist Picks: Wall Project「村上早 Stray Child」(会期:令和4年3月12日～11月6日) ・[第2弾]New Artist Picks: Wall Project「浦川大志 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲い」(会期:令和4年11月14日～令和5年5月31日)	【評価できる点】 ・「New Artist Picks: Wall Project」を実施し、当館が掲げる「新進作家の紹介」の機会を確保しました。 ・[第1弾]New Artist Picks: Wall Project「村上早 Stray Child」(会期:令和4年3月12日～11月6日) ・[第2弾]New Artist Picks: Wall Project「浦川大志 掲示: 智能手机ヨリ横浜仮囲い」(会期:令和4年11月14日～令和5年5月31日)	【課題】 ・大規模改修後は、より多様な分野の作家を紹介し、来館者の裾野を押し広げるために、ギャラリー以外のさまざまな場所を活用した展示に積極的に取り組む必要があります。その実現に向けた財源の確保と条件の整備が課題と考えます。	
【成果:休館中の事業等】 コレクションに関する3つの活動(A 収集 イ 保存 ウ 活用)について継続的に取組み、リニューアル後を見据えたコレクションの充実と発信力向上に努めました。 ア 収集 ・作家、作品の調査、所蔵者との交渉等の日々の活動の蓄積を経て、400点を超える本年度の収集候補作品を取りまとめて市に提案し、10月に開催した美術品および資料収集内部検討委員会において承認されました。 ・市内企業からの現代美術作品収集に対する寄付の申し入れに対して、主旨にふさわしい候補作家・作品プランを市および企業側に提案し、その実現に向けて調整に努めました。 イ 保存 ・外部倉庫での作品の管理については、月1回の倉庫内点検を含め、適切におこなっています。 ・外部倉庫への作品搬出に際する点検において今後修復が望ましいと判断された作品群について、改修後の作品移送・蔵置・展示に向け、優先順位をつけて処置にあたっています【提案書「事業目標1」参照】。 ウ 活用 ・コレクション画像については、本年度末までに、令和3年度の新収蔵品を含めた約1万1千点の作品画像がウェブサイト上で公開され、当館のほとんどのコレクションの画像をどこからでも閲覧できる環境が整備されました【文化庁文化観光拠点計画】。 ・コレクションの基礎情報については、日英両語でのデータの収集・整備・表記統一作業を継続し、ウェブサイト上の情報更新を随時おこなっています【文化庁文化観光拠点計画】。 ・コレクションの作品解説については、簡明な文と平易な表現により幅広い世代の方々が見やすくなることを共通認識として、年間を通じて学芸員全員で執筆作業を進め、そのうち英訳の完了した250点を超える解説をウェブサイト上で公開しました【文化庁文化観光拠点計画】。 ・「令和3年度 横浜美術館収蔵品目録」を3月に発行しました。 ・コレクションの貸出については、休館中は原則として停止していますが、借用依頼のあった案件をその都度検討し、その展覧会への出品の意義の有無、貸出作業の困難さやリスクなどの諸要件に照らして、貸出が望ましいと判断された案件については適宜貸出しをおこないました。 ・コレクションの貸出の一環として、郡山市立美術館において、当館の日本画コレクションによる展覧会「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」を開催し(会期:令和4年4月23日から6月、入場者数:5,100人)、これまで横浜美術館に足を運んだことのない方々を含む多くの方に、当館の充実したコレクションを鑑賞する機会を提供しました。 ・「やどかりプログラム」においては、コレクションを活用したシリーズ講座やボランティアによるトーク講座を実施するとともに、造形講座でもコレクションに用いられている技法やテーマに注目したプログラムを実地開催しました【事業③(1)教育プログラム【鑑賞教育】、【造形教育】、(3)市民協働:ボランティア等に詳細を記載】。 ・「オンライン発信!プロジェクト」では、コレクションを紹介する映像シリーズ「じっくりみる この一点」を5点、「どんな技法?」2点を新たに制作しました【事業③(1)教育プログラム【造形教育】に詳細を記載】。 ・MMパークビルにおける壁面投影プロジェクトに、映像コレクション1作品、および「じっくりみる この一点」2番組を提供しました【1経営(4)外部連携参照】。 ・鑑賞アプリ「みるみるアート」の第2弾を野村総合研究所と共同開発しました【1経営(4)外部連携参照】。 ・キャン・マーケティングジャパンと博報堂によるアート鑑賞番組(オンラインでのライブ配信)に参加し、コレクション2作品を高精度映像と学芸員による解説付きで紹介しました(3月)【1経営(4)外部連携 参照】。	【評価できる点】 ・郡山市立美術館において「横浜美術館所蔵 日本美術院の作家たち展」の開催を成功させ、所蔵するコレクションの鑑賞機会を提供するとともに、横浜美術館のプレゼンスを高めたことを高く評価します。 ・市内企業からの美術作品収集に対する寄附の申し入れに対して、横浜美術館をはじめとする関係者間の調整の結果、実現に向けた道筋が整理されました。 ・コレクション画像について約1万1千点をウェブサイト上で公開し、ウェブ上で閲覧できる環境を整えたこと、250点を超える作品解説を日本語と英語で公開したことを評価します。 ・美術情報センターは、リニューアルオープン前に図書資料の収集方針、室内のレイアウト等をまとめた一方で、所蔵映像資料約300点の映像番組をデジタル化し、新たな図書検索システムに移行するなど、環境整備が順調に進められていることが確認できました。	【課題】 ・大規模改修後は、より多様な分野の作家を紹介し、来館者の裾野を押し広げるために、ギャラリー以外のさまざまな場所を活用した展示に積極的に取り組む必要があります。その実現に向けた財源の確保と条件の整備が課題と考えます。	【更なる取組を期待する点】 ・コレクションは、他の美術館への貸出のほか、「やどかりプログラム」や紹介動画「じっくりみるこの一点」のウェブ上で公開、近隣企業との連携の際の活用がなされており、リニューアルオープン後も多岐にわたる活用を期待します。 ・大規模改修後の移転作業が滞りなく進むよう、引き続き美術資料の蔵置計画や美術図書等の配置計画を進めてください。
【成果:改修後に向けた検討】 リニューアルオープン後におけるコレクションの収集・保存・活用のあり方について具体的な検討を進めました。 ア 収集 既定の収集方針に加え、これまでの収集活動の実績や今日の美術界の情勢等を踏まえ、収集の重点領域、継続性・主体性をもった収集活動のあり方等について検討を重ねました。 イ 保存 改修後のコレクション移転・収蔵庫への蔵置作業に向け、保存環境、スペース効率、使い勝手や安全性等を踏まえた蔵置計画の立案に着手しました。 ウ 活用 「休館中の事業」に集約記載		【課題】 ・向後の収集活動の推進に向け、文化基金の充実が課題と考えます。	
【成果:休館中の事業等】 蔵書の出納や新規購入により休館中の調査研究活動をバックアップするとともに、市民が図書資料を簡便に、より高い精度で検索できる環境整備を進めています。 ・外部倉庫に保管中の蔵書について、作品解説執筆や展覧会企画等において必要な図書資料の出納作業を毎週実施しています。 ・書誌データの整備を継続的におこない、ウェブサイト上の情報を随時更新しています。 ・高い機能性と豊富なデータ容量をもつ新しい図書検索システムへの移行を実施しました。		【課題】 ・膨大な図書資料と充実したサービスの提供を高い水準で維持するための人的体制と財源の確保が課題と考えます。	

令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<b>使命</b>	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人々が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和4年度計画		実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明
	16	(3) 調査・研究	● 紀要の発行(論文3本以上、日英併記、ウェブサイトでも掲載)	1回/年	1回/年【達成】 B ・3月 発行、ウェブサイトへの掲載
政策目標(事業③) 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	17	(1) 教育プログラム:鑑賞教育[重点的な取組み]	● 仮拠点におけるワークショップ	12回/年	21回/年【達成】 A ◇若者支援 ・5/14振り返りシンポジウム(オンライン) ・7/31振り返りシンポジウム報告書発行 ◇教員向け ・6/18教員向け鑑賞会(オンライン)□ ・7/22教員のための研修会(教育委員会) ・9/24教員向け鑑賞会 ・3月 2021教師向け鑑賞ガイドウェブダウンロード報告書発行 ◇一般向け ・10/8写真□ ・11/19絵画と能楽 ・1/21絵画と能楽 ・2/18丹下建築 ◇一般向け:ボランティアによる ・6/22「アートで街歩き」2コース(オンライン) ・6/25「アートで街歩き」1コース(オンライン) ・7/2,6,9「アートで街歩き」各1コース(オンライン) ・11/30アートワーク ・12/3,7アートワーク ・12/10,17物語 ・1月 建築Twitter発信第2弾
	18		● 参加者アンケート試行	試行	実施【達成】 B ・5/14,7/22,10/8,11/19,30,12/3,7,10,17,1/21,2/18実施
	19		● 改修後の鑑賞教育方針、事業の枠組み(アートギャラリー1での開かれた活動含む)、組織の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】 B ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
	20	(2) 教育プログラム:子どものアトリエ・市民のアトリエ	● 仮拠点におけるワークショップ	24回/年	26回/年【達成】 B ◇一般向け(子ども・親子対象) ・5/21木の車 2コース ・6/11粘土でお絵かき 2コース ・7/2カラービニール 2コース ・10/1たき美学 ・10/29日本画体験 ・2/25おきなお面 ◇一般向け(12歳以上対象) ・6/4着物地 ・8/6,27新聞紙粘土 2回 ・9/24村上早トーク□ ・10/1焚美学 ・11/15共存(連携:横浜国立大学) ・12/3糸紡ぎ 2コース ・1/21浦川大志公開制作&トーク(会場&オンライン) ・2/4川内理香子WS ◇教師向け ・1/14教師WS 2コース(オンライン) ◇オンラインコンテンツ配信 ・じっくりみる この一点 3本 ・どんな技法? 2本
	21		● 参加者アンケート	試行	実施【達成】 B ・オンラインコンテンツ除く全講座で実施
	22		● 改修後の造形教育方針、事業の枠組み、組織の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】 B ・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果:休館中の事業等】 職員がそれぞれの専門性に基づいた調査研究活動に継続的に取り組み、紀要、作品解説、収蔵品や蔵書のデータ更新、改修工事に関わる諸課題の検討、休館中およびリニューアル後の事業の企画立案など、多様な館活動においてその調査研究の成果を反映・発信しています。 ・研究紀要については、第24号(論文4本所収)を3月に発行し、あわせてウェブサイト上にも公開しました。</p> <p>【課題】 ・現在の紀要は、英文がサマリーのみ掲載されています。将来的には、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信するための財源の確保が課題と考えます。</p>	
<p>【成果:休館中の事業等】 一般向け、教員および指導者向け講座などを「横浜[出前]美術館」「やどかりプログラム」として実施するとともに、オンラインコンテンツやアーカイブの充実につとめました。 (1) 教育プログラム:鑑賞教育 ・一般に向けた講座として、ボランティアによるコレクションをテーマにしたアートワークをオンラインで実施しました[文化庁文化観光拠点計画]【事業③(3)市民協働:ボランティア等に詳細を記載】。 ・コレクションを活用したシリーズ講座「横浜美術館コレクションを深掘りする」では、写真や能楽などのテーマを立てたり、丹下健三と横浜美術館の建築について理解を深めたりするなど、様々な視点からコレクションの魅力を再発掘しました【事業②(1)コレクション ウ活用 参照】。 ・教員向けに「横浜美術館コレクションと学校をつなぐ鑑賞会」を開催するとともに、横浜市民芸術文化教育プラットフォームの一環として小中高の「教師のためのワークショップ」を実施し、教育委員会や学校との連携を継続しました。 (2) 教育プログラム:造形教育 ・個人に向けた講座を対面および一部オンラインを活用して開催しました。感染対策を講じながら、アーティストや専門家とともに取り組むプログラムや、生活の中にある身近な素材を活用した創作などに取り組みました。 ・「五感で学ぶ焚美学」では、火口(ほくち)作りや「メタルマッチ」を使った基本的な火のおこしかたを学び、人間と火の関係、ひいては美術とのつながりを考えました。 ・コレクションより、安田靉彦(やすだ・ゆきひこ)の「紅花青花」を参考に、学校の図画工作美術科教育では触れる機会が少ない日本画の画材を用いて描く講座を開催しました【事業②(1)コレクション ウ活用 参照】。 ・幼児、初等、養護教育に携わっている指導者向けに、子どもの造形活動とそこにおける教師の役割を考える「教師のためのワークショップ」を開催しました。 ・ホームページ内のプログラム「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」のうち、解説やナレーションをあえて加えず、映像のみでコレクションを紹介するシリーズ「じっくりみる この一点」につき、新たに5作品を公開しました。細部のクローズアップなど、さまざまな角度からとらえた映像により、じっくり作品と向き合うことができます。また、この映像を、MMパークビルイベントスペースへの壁面投影プロジェクトに提供しました【1経営(4)外部連携、事業②(1)コレクション ウ活用 参照】。 ・同じく「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」内に、コレクションに用いられる技法を造形エデュケーターの実演により紹介するシリーズ「どんな技法?」の日本画編2点を公開しました。 ・子どものアトリエ、市民のアトリエの30年にわたる造形活動の記録や、展示企画、アーティストとの取組みを収めた貴重な映像や資料の整理・デジタルライズに取り組みました。</p> <p>【成果:改修後にに向けた検討】 (1)(2) 教育プログラム ・令和4年度に立ち上げた「e未来プロジェクト」の協議を引継ぎ、教育普及グループ内のチームを横断して、改修後の鑑賞教育および造形教育の方針、事業の枠組み、実施体制について、中期的見通しをもちながら検討を進めました。 ・無料ゾーンとなる「はとばエリア」活用のあり方について、建築家と交え、学芸グループとともに検討を重ねました。</p> <p>【課題】 ・オンラインの活用など新たな手法によるプログラムの開発や継続的な実施には、作品や造形に関する知識と経験、コレクションの調査研究等にもとづいた知見の継承が必要のため、人材の確保と長期に渡る育成、予算の確保が課題です。</p>	<p>【評価できる点】 ・令和3年度に続いてアウトリーチの「横浜[出前]美術館」、仮拠点での「やどかりプログラム」をはじめ、仮拠点の内外で休館中の事業に取組み、横浜美術館の存在感を高めたことを高く評価します。 ・教員向けの「横浜美術館コレクションと学校をつなぐ鑑賞会」や「教師のためのワークショップ」を開催し、特色あるプログラムを継続できました。 ・「やどかりプログラム」では、NAPと連携して若手アーティストによるトークを開催するなど、学芸、教育普及の両グループ間にまたがる活動も積極的に行いました。 ・市民協働では、ボランティア47名が3グループに分かれて活動し、それぞれアートワークのプログラムやSNSによる発信などの成果に結びつけました。 ・各種社会貢献事業では、若者支援プログラムを総括する冊子をまとめて、これまでの活動を振り返る試みがなされるなど、新たな萌芽を感じさせました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・リニューアルオープン後を想定した事業の実施体制を引き続き検討し、魅力的な活動内容と無理のない人員体制のバランスを探っていくことを望みます。 ・「横浜[出前]美術館」の実施により得た連携の糸口を、ぜひ今後活かしてください。 ・今後のコレクション・フレンズの運用方針等について、中長期的な展望に立った提案を期待します。</p>



令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

使命	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人々が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和4年度計画		実績		実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績		説明	
	23	(3) 市民協働: ボランティア等	●鑑賞ボランティア活動(ビジターサービスボランティア活動含む)	30人/年	47人/年【達成】	B	
	24		●参加者アンケート	試行	実施【達成】	B	【追加実績】1件 5/28NTTテックノクロスボランティア
	25	(4) 市民協働: コレクション・フレンズ	●改修後のコレクション・フレンズの再構築: 制度設計	大規模改修後にに向けた準備	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
	27	(5) 市民協働: 各種社会貢献事業	●アウトリーチ ・福祉施設、病院等、高齢者施設、その他	12回/年	22回/年【達成】	A	◇近隣企業 ・5/25野村総研WS【HTA】 ・7/22オープンイノベーション促進コミュニティ-EDEN WS【HTA】 ・8/31MMパークビル作品投影トーク【HTA】 ・10/12野村総研対話型鑑賞【HTA】 ・11/19横浜未来機構WS(京セラみなとみらいリサーチセンター) ・12/13野村総研WS【HTA】□ ・1月 デモ車キット送付(NTTテックノクロス)【HTA】 ・1/25野村総研トーク【HTA】 ・2/22MMパークビル作品投影トーク【HTA】 ◇近隣大学・文化施設 ・10/4,25共存(連携: 横浜国立大学) ・1/28ヨコリ@横浜市中心図書館 ◇横浜市芸術文化教育プラットフォーム ・9/20-22プラットフォーム(笠間小: 三ツ山一志)□ ・11/24-25プラットフォーム(共進中: 菊地敦己) ・1/27プラットフォーム(領家中: 松田修)□ ・2/17プラットフォーム(篠原中: 千葉大二郎) ◇福祉施設 ・3/16 若者支援@よこはま南部ユースプラザ・ユースサポート・ユースワークふじさわ ・3/27横浜市西部地域療育センター
28		・18区	9回/年(令和3年度横浜[出前]美術館実行委員会を踏まえ実施)	9回/年【達成】	B	・4/16都筑区 ・6/18旭区 ・6/25南区 ・7/23港南区 ・8/4保土ヶ谷区 ・10/22神奈川区 ・10/28港北区 ・11/12泉区 ・1/28中区	
29		●参加者アンケート	試行	実施【達成】	B	・4/16,5/25,6/18,25,7/23,8/4,10/12,22,28,11/12,19,12/13,1/28,2/22実施	
3 施設の運営事業	1	(1) 来館者サービスの充実	●改修後の来館者サービスの基本方針および当館組織について検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出
	2	(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップでのオンラインでの販売: 実施	実施	実施【達成】	B	
	3		●改修後のショップおよびカフェでの開かれた活動についての方針と当館組織の検討	中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果: 休館中の事業等】</p> <p>(3) 市民協働: ボランティア等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>47人のボランティアが活動しました。</li> </ul> <p>「横浜美術館コレクションと歩く ヨコハマ・アートウォーク」では、作品をじっくり観察した上で、描かれた当時や現在の街の写真と見比べることで、時を超えても変わらない街の魅力や変化する時代の息吹が感じられるような3つのコースを、また、「横浜美術館コレクション」でめぐる物語の世界」では、物語を主題にした作品の、物語と作品それぞれの背景を紐解きながら、これら2つをつないだ世界を旅するプランをつくり、ボランティア自身が語り手となって、発表しました。</p> <p>また、「横浜美術館建築のヒミツ」として、Twitterで、美術館の建物や設計者・丹下健三のヒミツを発信する連載企画を実施し、noteにもまとめました【文化庁文化観光拠点計画】。</p> <p>(4) 市民協働: コレクション・フレンズ</p> <p>「改修後に向けた検討」に集約記載</p> <p>(5) 市民協働: 各種社会貢献事業 (アウトリーチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設、特別支援学校を含む教育施設、病院、高齢者施設などへのアウトリーチおよび、みどりアップ事業については、コロナ禍のなか当該施設等との協議を踏まえて実施を見送りましたが、withコロナの流れのなか、3月に若者支援施設と横浜市西部療育センターへのアウトリーチを実施しました。</li> <li>若者の自立を支援する福祉施設へのアウトリーチは、鎌倉女子大学学術研究所と連携して振返りのシンポジウムを開催し、同時にオンラインの配信もおこないました。</li> </ul> <p>また、過去の事業を総括するため、『若者支援プログラムを解体し、創造する: 9年間のあゆみとこれから』と題した冊子をまとめました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者施設へのアウトリーチはコロナ禍で施設への訪問を控えることになりました。連携している横浜国立大学教育学部と協議し、車椅子ユーザーであるアーティストの檜皮一彦氏を招き、大学キャンパスで学生とともに車椅子を運ぶグループワークをおこなうとともに、「やどかりプログラム」としての学生自身向けと一般向けのワークをおこないました。車椅子を運搬する過程で得られる感覚やコミュニケーションの新たな回路の発見など、障がいの本質について深く考え、多くの気づきを得る機会となりました。</li> <li>市内18区における文化施設(財団所管施設を含む)へのアウトリーチは、館内グループ横断の「横浜[出前]美術館実行委員会」を前年度から始動させ、コレクションに関するトーク、作家によるトーク、子どもあるいは一般向けのワークショップ等を、9区(都筑区、旭区、南区、港南区、保土ヶ谷区、神奈川区、港北区、泉区、中区)で実施しました。なかでも、横浜市歴史博物館や慶應義塾大学(日吉キャンパス)など専門施設との共催は、共催団体からも好評を得て、今後の連携の糸口となりました。</li> <li>横浜市芸術文化教育プラットフォームの一環として、小学校(1校)および中学校(3校)でプログラムを実施しました。中学3年生を対象としたプログラムでは、アーティストの千葉大二郎さんを迎え、『「衝撃」から生まれる表現』と題して、アーティストの表現に直に触れ、表現やアーティストが自分たちの生活から遠く離れたものではなく生きていく上でのヒントになることを知るとともに、卒業後も主体的に美術鑑賞をしていざきっかけをつくることをめざすプログラムを実施しました。</li> <li>アーツイン美術館(公益財団法人石橋財団)コレクション「展特集コーナー「ピカソとミロの版画」において、市民のアトリエの専門的な版画道具と刷り見本の貸出、また展示パネルや小冊子の技法解説に掲載する実演画像の撮影に造形エデュケーターが協力しました。</li> </ul> <p>【成果: 改修後に向けた検討】</p> <p>(3) 市民協働: ボランティア等 (5) 市民協働: 各種社会貢献事業 (アウトリーチ)</p> <p>上記(1)(2)と同じ</p> <p>(4) 市民協働: コレクション・フレンズ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改修後の「フレンズ」の取組方針については、外部連携の基本方針に則り、令和4年度の継続的な検討を踏まえ、令和5年度の業務において提案します。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術館協力会との関係を活かした、館を市民が支えてくださる仕組み作りが課題と考えます。</li> <li>社会的に期待の高い取組のため、改善すべき事項や効果を検証し、そのノウハウを着実に蓄積することが課題と考えます。</li> </ul>	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜美術館の空間構成の最適化を図るための「全体プロジェクト」を推し進め、グランドギャラリーや屋外など利用頻度の高いスペースが使いやすく親しみを持てるよう、様々な利用者のニーズを踏まえて什器やサイン等の検討を行ったことを評価します。</li> <li>ショップとカフェについて、指名型プロポーザル方式による委託事業者の選定手続きを進めて、リニューアルオープン後の調整を行うなど、滞りなく準備を進めました。</li> <li>来館者サービスについて「多様性」の観点から整理し、子ども・子育て層をターゲットとして絞り込むなど、リニューアルオープンに向けた方向性が明確化しました。</li> </ul> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リニューアルオープン後、来館者アンケートを基に全館的な改善を図る方針が着実に実行に移されることを期待します。</li> <li>横浜美術館の運営、活動記録のアーカイブ化を完成させ、ウェブサイトで公開されることを望みます。</li> </ul>
<p>【成果: 改修後に向けた検討】</p> <p>(1) 来館者サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「デザイン・プロジェクト」等で、再開館後の来館者サービスのあり方について、ハード、ソフトの両面で検討しました。</li> </ul> <p>(2) ショップやカフェの付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>休館中においてもオンラインショップを継続的に運営しました。</li> </ul> <p>【成果: 改修後に向けた検討】</p> <p>(1) 来館者サービスの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来館者サービスについて、「多様性」の観点から見直しを進める来館者サービスについては、令和6年度からの本格運用に向け、外部の有識者を交えて基本方針を検討しました。</li> <li>第3期指定管理における提案の主要な観点である「多様性」の概念を「ユニバーサル」と「インクルージョン」とに大別して、その両立のために子ども・子育て層をターゲットとして絞り込みました。</li> <li>「多様性」に資する環境整備や人的対応だけでなく、展示・教育の各プログラムを検討・実施すること、展示室、アトリエ、美術図書室、無料空間など、全ての場所につき来館者アンケートを行うこと、その結果を各施策にフィードバックすることで、ユーザー視点に立った改善を図るという方針を策定しました。</li> </ul> <p>(2) ショップやカフェの付加価値の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度策定した「ショップ・カフェの改修後の方針」に基づき、「はとばエリア」の一角を占めるショップとカフェについて、指名型プロポーザル方式による委託事業者の選定をおこないました。</li> <li>各事業者とのリニューアルオープンに向けた諸調整をおこなうため、定期的に打ち合わせの機会を設け、意見交換しました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来館者サービスについては、新型コロナウイルスへの対応等、鑑賞環境などの変化に柔軟に対処していくことが重要であると考えます。また、ショップ・カフェについては、リニューアルオープンを見据えて、グランドギャラリー等他機能との一体性を考慮しながら、サービスを向上させていくことが課題となります。</li> </ul>	

令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<b>使命</b>	
(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。 (3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。	

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和4年度計画		実績		実施状況	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
政策目標(施設運営②)財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。	(1) 適正な施設管理	●大規模改修  (全体デザインプロジェクト)  ●改修に伴う作品・資料・事務所移動及び管理業務(改修に伴う作品・資料の移動及び民間倉庫における管理業務、改修に伴う事務所移転及びプロット48管理業務)  ●改修後の開館30周年データ集ウェブ公開に向けた準備  ●リニューアルオープン準備  ●第三期指定管理事業計画書準備	原則、市との改修工事定例会1回/月	実施【達成】	B	【追加実績】1件 ・6/10仮囲い(鈴木理策) ・12/21仮囲い(みなといろ)	【成果:休館中の事業等】 ・大規模改修工事については、工事内容を含め、リニューアルオープンのスケジュール、初度調弁等を継続的に市と調整しました。 ・9月と1月に仮決算を実施し、予算執行と事業の進捗を管理し、次年度の組織体制について、強化の観点から検討しました。 ・専門人材研修等、内外の研修を受ける機会を設け、人材強化に努めました。  【成果:改修後に向けた検討】 (1) 適正な施設管理 ・リニューアルオープン後を見据え、主として「はとばエリア」の空間構成と調度什器の設計を検討する「デザイン・プロジェクト」をグループ横断で立ち上げ、協議を重ねました。建築家やデザイナーと協働して、家具什器、動線・サイン計画等を協議し、什器約100種類、サイン約300点のデザイン・設計を行いました[文化庁文化観光拠点計画]。上記の設計にあたっては、インクルーシブ・ワークショップを実施し、さまざまな利用者のニーズを踏まえました。 ・光熱水費について、改修により水道光熱設備が全面的に更新されるため、あらためてその経費を試算し増額の規模を想定しました。サーバー・PCのリプレイスを実施するとともに、業務効率化のためのDX化を検討しました。 ・過去40年間の館の活動データ等をウェブサイト上で公開するため、館内グループ横断の「美術館の運営・活動記録アーカイブ化プロジェクト」で検討のうえ、年報など基礎データと市が保管している文書資料を整理し、公開に向けて編集作業をおこないました。 ・リニューアルオープンについては、美術館事業への期待感を高めながら、開館35周年を迎えるべく、広報・事業の開始について3つのステージを設定しました。 (2) 経営基盤の強化 ・近隣の企業や団体の要請をうけ、ワークショップなどの事業の実施やプロジェクトへの参画を通して関係構築と強化に取り組みしました 【1 経営(4)外部連携に詳細を記載】。 (3) 人材強化 ・専門人材研修を内部で2回実施するとともに、学芸員やエデュケーター対象の外部研修に職員を派遣し、人材育成に努めました。  【課題】 ・大規模改修後は、設備更新による経費節減効果が見込まれる一方、収蔵庫、エレベーター、アートギャラリー3(仮称)等の増設により新たに発生する光熱水費や保守点検の費用があり、効率的な施設管理と財源確保が課題です。
			建築家決定・グラフィックデザイナー決定	実施【達成】	B	・6月 建築家・グラフィックデザイナー決定	
			原則、プロット48運用定例1回/月	1回/月	B	・3月 和文一部完成	
			調査に基づき年表や各タ集ウェブ公開に向けた準備	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出	
			各年度ステージ設定	実施【達成】	B		
			中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出	
			中期的見通しを持った単年度計画立案 実施	実施【達成】	B	・7月一次案提出、12月二次案提出、1月最終案提出	
			実施	実施【達成】	B		
			計口 45人 ・館長口 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員29人	【未達成】	B	計口 44人 ・館長口 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員28人	
			—	—	—	—	

評価		自己評価	行政評価						
4 その他:政策協働  政策目標(その他の業務)政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	(2) 経営基盤の強化	(3) 人材強化	【成果:休館中の事業等】 ・市と協議しながら、業務遂行しました。  【課題】 ・政策経営協議会などを通して、市と館の運営について課題を共有し、連携を図ることが重要です。	【評価できる点】 ・市との連携のもと、仮事務所を安定して運営し、各種事業を進められました。  【更なる取組を期待する点】 ・令和5年度から新たな指定期間となり、持続可能でバランスの取れた組織編成を検討していることが伺えます。リニューアルオープンを機に、時々の課題にも柔軟に対応しながら、引き続きバランスの取れた組織編成と事業の構築を進めることを期待します。					
					市の政策と事業の相互連携	原則、モニタリング1回/月	1回/月【達成】	B	・4/26,7/19,1/17 政策経営協議会 ・8/9 外部評価委員会 ・8/9,11/25,1/21,2/4 外部評価委員視察対応
					外部意見の取入れ 外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	1回/年【達成】	B	・9/7「新学習指導要領を学ぶ」
					年報発行	1回/年	1回/年【達成】	B	・1/27発行
					過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	計口 45人 ・館長口 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員29人	【未達成】	B	計口 44人 ・館長口 1人 ・副館長 1人 ・グループ長 5人 ・チームリーダー 9人 ・担当リーダー・職員28人
					—	—	—	—	
					業務の基準に基づいた適正コンプライアンス窓口を設置	実施	実施【達成】	B	
					個人情報保護研修	1回/年	1回/年【達成】	B	・10月
					財団事務局に情報公開窓口	実施	実施【達成】	B	
					横浜市や関連機関との連絡	実施	実施【達成】	B	
					法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施【達成】	B	

令和4年度 横浜美術館指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

<p><b>使命</b></p> <p>(1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。</p> <p>(2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。</p> <p>(3) 未来をにう子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。</p> <p>(4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。</p>
---

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目	令和4年度計画		実施状況			
	項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明
総合						

評価	
自己評価	行政評価
<p><b>【成果】</b></p> <p>令和4年度は、第3期指定管理期間(令和5年度～14年度)の核となる「みなとモデル」(「多様性」「持続可能な活動」「健全な経営」)を念頭に、大規模改修工事後の活動再開に向けた方針の策定や、事業、運営体制の検討に取り組みました。</p> <p>●休館中の事業等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示:当館コレクションによる展覧会を郡山市立美術館で開催したほか、改修工事中の仮囲いを利用した若手アーティストの展示を実施するなど、休館中においても市民サービスの提供を継続するとともに、当館の活動を広く発信しました。</li> <li>・コレクション:市内企業の寄付による作品購入の実現に向け調整を進めたほか、外部倉庫における作品管理を十全に行うとともに、インターネット上の作品画像、データ(日英)、解説(日英)の公開を拡充し、再開館後を見据えたコレクションの充実と発信力向上に努めました。</li> <li>・教育普及事業:昨年度に引き続き、仮拠点であるPLOT48内、および市内18区においてレクチャーやワークショップを実施し、またオンラインプログラムを実施するなど休館中においても市民サービスの提供を継続するとともに、当館の活動を広く発信しました。また学校連携、企業連携等も積極的にを行い、休館中においてもこれまで培ってきたネットワークの継続・発展に努めました。</li> </ul> <p>●改修後に向けた検討</p> <p>特色あるものとして次があげられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料エリアである「はとばエリア(仮称)」の空間構成を行う「全体デザインプロジェクト」や、ショップ・カフェ、ウェブサイトリニューアル等を推進しました。設計者、事業者等を選定して計画を具体化し、「街とのつながりの強化、多様性に配慮した空間、諸活動の可視化、くつろぎの要素」など再開館後の理念を視覚的に表現しました。</li> <li>・再開館後最初の展覧会となる「第8回横浜トリエンナーレ」について、改修工事の工期延長に伴う会期変更などがある中アーティストック・ディレクター(AD)の選出など開催準備を着実に進め、開催を広く発信しました。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p>刻一刻と変わる社会情勢や鑑賞・創作環境の変化に柔軟に対応しながら、来館者の裾野を押し広げ、事業における質的水準の高さと収支バランスを両立させることが重要と考えます。</p> <p>また、発信力を高めるとともに、市民が支えてくださる仕組み作りや、美術振興、市の政策、収益性、にぎわいの創出への寄与などの観点から外部との連携をさらに深めていく必要があります。</p> <p>再開館後の健全な経営のためには、限られた人員体制の中で効率的な運営を行うためのマネジメントや人材育成、効率的なファンリテイナージメント、多様な財源の確保などに取り組む必要があります。</p> <p>引き続き政策経営協議会などを通して、横浜市と課題を共有し、連携を図ることが重要と考えています。</p>	<p>令和4年度は、横浜美術館の大規模改修中、大がかりな移転作業が生じない唯一の年度と想定しており、休館中の事業、大規模改修後に向けた検討とも腰を据えた取組が求められました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのような中、前年度に引き続き、アウトリーチや仮事務所におけるワークショップなどを質量とも充実した内容で行い、休館中でも市民等が美術に触れる機会を提供したほか、ウェブサイトを中心に横浜美術館の活動を広く発信したことを高く評価します。</li> <li>・コレクションに関して特筆するものとして、郡山市立美術館における横浜美術館のコレクション展の開催が挙げられます。令和3年度に愛知県美術館、富山県美術館で開催されたトライアローグ展も含めて、コレクション巡回展の実績を積み上げており、休館期間を活用した取組としてはこの上ないものとなりました。</li> <li>・展覧会に関しては、大規模改修中の横浜美術館の仮囲いを使って2度にわたり若手アーティストの展示(NAP)を実施し、横浜美術館正面口のグランモール公園側からは、年間を通して美術作品と触れ合うことができるようにするなど、創意工夫も感じられました。</li> <li>・仮事務所では、大きなトラブルなく1年間、運営を行ったことを評価します。</li> <li>・リニューアルオープンを見据えた取組は、全体プロジェクトをはじめ各分野で着実に進められていることが確認できました。横浜トリエンナーレの開催準備も同時並行となり、大規模改修の工期延長もあって難しいかじ取りを迫られる中で、横浜美術館として、それぞれの状況の変化に応じて柔軟な対応が行っていました。</li> <li>・収支では、文化観光拠点計画で文化庁から多額の補助金を得るなど、収入を増やす努力が実を結んだことを評価します。物価高騰の影響下でありながら、前述の補助金もあり収支は黒字に収まりました。</li> <li>・令和5年度より次期指定期間となります。指定管理者としての責務を認識し、提案書に沿いながら大規模改修後の新たな姿を提示し、市民や横浜美術館を訪れる方々にとってかけがえのない存在であり続けることを期待します。</li> <li>・令和5年度は、第8回横浜トリエンナーレの開幕によるリニューアルオープンの準備や移転作業を着実に推進することを望みます。</li> <li>・また、第8回横浜トリエンナーレの閉幕以降について、本市とも課題を共有しながら事業展開を検討し、スケジュールや収支を管理してください。</li> <li>・休館中にも培ってきた様々なネットワークを活かしつつ、メディアやウェブサイト、SNS等での発信力を磨き上げてリニューアルオープンに臨むことを期待します。</li> </ul>